

SystemVue アプリケーション・パーソナリティ・トレーニング

コース型番:

お客様先オンサイト:N3249D

SystemVue には、ライブラリ、アプリケーション・パーソナリティが用意されています。本コースでは、これらの操作を習得するコースです。

コース概要

SystemVue アプリケーション・パーソナリティ・トレーニングコースでは、SystemVue のサポートしている全てのライブラリおよび、アプリケーション・パーソナリティごとに、それらの活用方法を学ぶためトレーニングコースです。本コースは、1アプリケーション・パーソナリティのトレーニングにつき半日~1 日間とし、1 つから複数のアプリケーション・パーソナリティを選択して受講することができます。コース内容は、アプリケーション・パーソナリティごとに異なりますが、基本的には次のような内容で構成されています。

- ・アプリケーション・パーソナリティの概要
- ・アプリケーション・パーソナリティ独自のパーツの設定方法
- ・例題による活用方法の説明

コースを通して学ぶもの

SystemVue のライブラリやアプリケーション・パーソナリティの操作方法

対象者

SystemVue のライブラリやアプリケーション・パーソナリティを活用したい方

前提知識

- ・SystemVue ベーシックコースを受講していること、もしくは、SystemVue の操作方法に関して SystemVue ベーシックコース受講者と同等の知識を有していること。
- ・対象となるアプリケーションの基本知識を有していること。

コース期間

半日~1 日間(1 アプリケーションにつき)

コース構成

講義 50% / 実習 50%

提供方法

お客様先オンサイト

お客様のお時間や出張コストの節約のために多くのコースでお客様先でのご提供が可能です

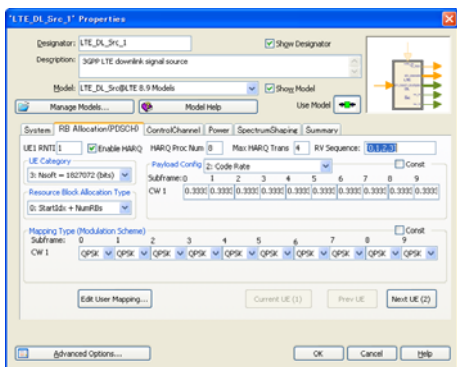
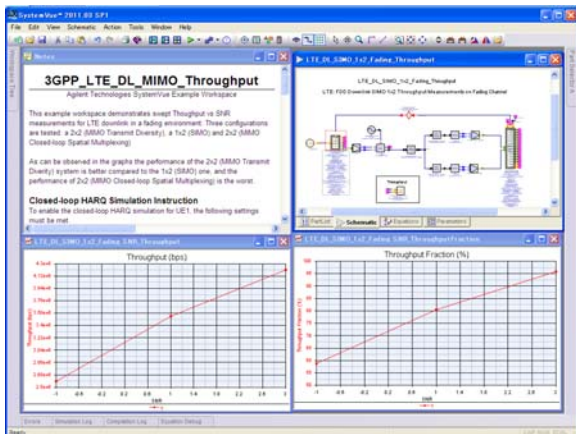
詳細はお問い合わせください

コース内容詳細

SystemVue のライブラリ、アプリケーション・パーソナリティごとにコース用意されています。代表的なものを以下にご紹介します。(下記に記載のないアプリケーション・パーソナリティのトレーニングの詳細に関しましてはお問い合わせください。)

・LTE ライブラリトレーニング

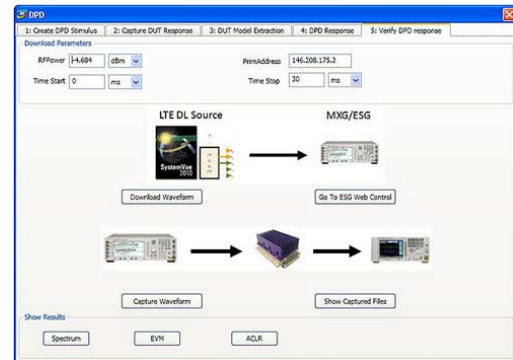
W1910 LTE ベースバンド検証ライブラリには、3GPP LTE 仕様に準拠したチャネル・コーダなどの下位レベルの物理層ブロックや、LTE ダウンリンク・アップリンク信号源、LTE 復調器のような上位レベルのブロックなど、さまざまなモデルブロックが用意されています。本トレーニングでは、これらのブロックの設定方法やこれらのブロックを使用した coded BER、スループット、EVM の物理層評価方法を説明します。



W1910 LTE ベースバンド検証ライブラリが必要です。

・デジタル・プリディストーション・ビルダトレーニング

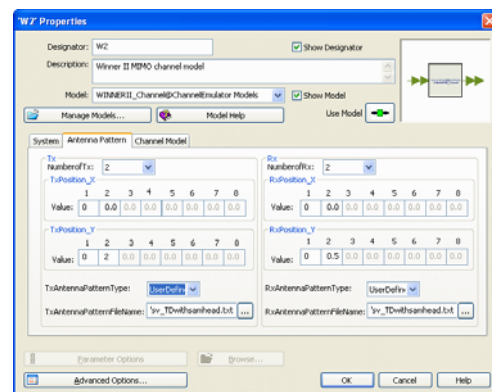
DPD プロセスを W1716 DPD ウィザードで実施する方法を説明します。W1716 DPD ウィザードは、図のように各ステップにおけるシミュレーション、測定器の設定を行い、順に実行していくことで、非線形メモリ多項式モデルを抽出することができます。本トレーニングでは、各ステップにおける設定、操作方法を説明します。



W1716 デジタル・プリディストーション・ビルダのライセンスが必要です。

・MIMO チャンネル・ビルダトレーニング

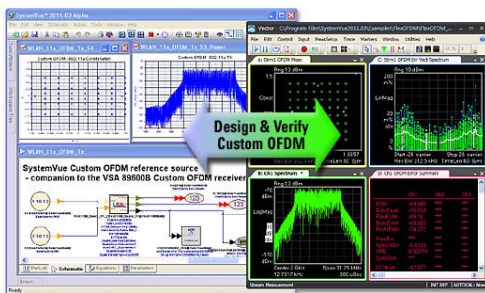
W1715 MIMO チャンネル・ビルダは、図のような専用モデルパーツを使用して、公開されている地形ベースの WINNER-II や 相関ベースの MIMO フェージング・アルゴリズムのモデルを生成し、シミュレーションを実施することができます。本トレーニングでは、これら専用パーツの設定、シミュレーション手順を例題ワークスペースを使用して説明します。



W1715 MIMO チャンネル・ビルダのライセンスが必要です。

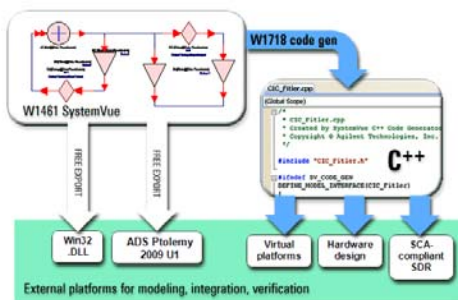
・FlexOFDM トレーニング

SystemVue には、OFDM ブロック・セットから構成された、フル・フレーミングおよびプリアンブル付きのパラメータ化された OFDM 信号源パーツがあります。本トレーニングでは、このパーツを設定方法に関して例題ワークスペースを使用して説明します。また、本パーツで生成した信号は、Agilent 信号発生器にダウンロードしたり、Agilent 89600B VSA ソフトウェアの「カスタム OFDM」パーソナリティに構成情報を提供して解析することができます。これらの方法も説明します。



・C++コード・ジェネレータートレーニング

W1718 C++コード・ジェネレータは、SystemVue のデータ・フロー解析モデルから C++コードを生成することができます。本トレーニングでは、C++コード生成のための設定、生成されるコードの種類、生成されたコードのコンパイル方法を説明します。生成された C++コードをコンパイルするには Microsoft Visual Studio 2008 Express edition C++が必要です。



W1718 C++コード・ジェネレータのライセンスが必要です。

コースの開催日程と開催場所に関する最新情報は

www.agilent.co.jp/find/education

連絡先

お客様窓口

Phone: 0120-421-345 (9:00~19:00)

Fax: 0120-421-678 (24時間受け付け)

E-mail: contact_japan@agilent.com